

1. 日時 :2014年10月18日(土) 14:00~16:45
2. 場所 :品川区立総合区民会館「きゅりあん」 5F
3. 演題:「モノのインターネット(IOT)時代とメーカーの未来」---スティーブ・ジョブズがデザインしていた未来社会---
4. 講演者:野村総研 システムコンサルティング事業本部社会ITコンサルティング  
シニア研究員 山崎 秀夫 氏 (ペンネーム 川北 蒼 氏)
5. 参加者:会員26名+友好会員5名+一般10名 計41名
6. 講演要旨

(1)工業社会からスマート工業社会へ

- ・パソコンからスマートホン、タブレット、スマートテレビ、スマートグラスへ。
- ・すべてのものがインターネットに繋がる時代。
- ・価値の中心がモノからサービスへ。

【アップルの戦略】

- ・アップルは、自前主義から脱却、ハードは基幹製品のみ、他はOEM。
- ・アップル製品認証制度の充実。 (売り上げの10%上納)  
Ex: アイホンによる  
TV、電球のON/OFFなどのホームキット(家電メーカーとのパートナー契約)  
体重、運動量、脈拍、などヘルスキット(有名病院、スポーツメーカーと契約)
- ・アップルは集合知の活用へ(ソフトに傾注)  
アプリケーション120万本と充実。  
スマート機器はアップル製品認証制度でハードメーカーと対抗。



【サムスはアップルに勝てない】

- ・ハードのモジュール部品→商品化ではコスト勝負。
- ・新興国メーカーが有利。
- ・日本企業に勝ったサムスン、LGが典型的な例。

【グーグルの戦略】

- ・グーグルの戦略は、アンドロイドの活用。ソフト重視。
- ・スマートホンの設計図と部品メーカー名を提供→中国メーカー乱立。
- ・スマートテレビは、シャープ、ソニーがアンドロイドTVへ。

【コマツは】

- ・消費者インターネット→産業インターネットへ。
- ・販売した建設機械の稼働状況を把握、自動運転など推進中。



【日本企業の活路】

- ・日本の生産物は生産財70-80%。今生産財もすべて繋がるスマート工業社会。
- ・先行しているのは、GEで産業インターネット。

- ①センサーによる販売後の産業機器のデータ収集
- ②予防保全のための分析と保全必要性レポート提供
- ③ウェアブル機器を使った技術者による保守実施



- ・そこで勝てるかが日本の正念場
- ・ロボットは唯一日本が勝てる領域→スタートアップ企業をどのように作るかが重要。

## 2. ウェアラブル機器のビジネス

### 【データベースマーケティング→ワンツーマンマーケティングへ】

- ・空港に顧客が到着すると端末に連絡が来て出迎え。
- ・同時に顧客の情報が届き、情報をもとにアテンダントしながらチェックイン実行。
- ・顧客満足度向上→継続利用へ。

### 【ヘルスケアとグループ医療保険】

- ・グループ保険は、雇用主の6割負担。
- ・社員への健康機器配賦データ管理し、医療費を抑制すれば保険料も低下。
- ・結果、企業負担金の削減、健康な社員による生産性向上へ。

以上